

ゆりかご 園だより

2019.12.2



3期(10~12月)のねらい
手を使ってつくりだす活動を中心に
園生活を豊かにしよう

「廃材」ということばを使っていましたが、研究の指導を受けている大学の先生に、「廃材」ではなく「素材」ということばを使うよう指導を受けたということでした。「当園でも「廃材」ということばを使っていたので、今後は気をつけたいと思います」と発言して帰ってきましたが、考えてみると、ゆりかごのものづくりの取り組みで使用する「素材」はやっぱり「廃材」の意味合いが大きいと感じます。

乳児期には握る動作から指先や手首を使っての遊びを楽しみ、やがて積み木や粘土などで形をつくり始めます。また、スプーンを使って食事をしたリパンツをはくなど、自分の力で生活する部分が増えてきます。さらに、幼児の子どもたちは手を使って生活に必要なモノやあそび道具、おもちゃなどをつくっていきます。

今はモノを大量に作り、消費する社会となり、買っては捨てる生活が当たり前になり、子どもたちは苦勞して手に入れることがりづくなっています。欲しいモノがすぐ手にする時代ですが、自分で作ることの喜び、苦勞して手に入れる満足感や充実感、モノや作り手への感謝の気持ちも育つことを願っています。

ものづくりの活動で、仲間と一緒に苦勞して作る喜び、大事に使うことの大切さ、役割を担ってのやりとりなどの経験をおして、園生活が豊かにならなりたいと思います。父母の皆さんにも「これ、ゆりかごなら何かに使えるんじゃない?」といろいろなものを提供していただき、「何をつくらしたら楽しめるかな?」と子どもたちの顔を思い浮かべながら考えるのも楽しいです。そんなゆりかごで大事にしているものづくり活動に欠かせないのはやっぱり「素材」だけではなく「廃材」が大きな意味を持っているのかなと思うのです。

今月4日は4歳児クラスの「りすぐみおまつり」、5日は5歳児クラスの「まじょのくに」に他クラスの子どもたち、先生たちが招待されます。5日の夕方は父母の皆さんおじいちゃんおばあちゃんたちもお招きする予定です。ぜひ楽しくあそんでいて下さい。

